



CAT2020：目録所在情報システムのこれから

これからの学術情報システムの在り方について (2019)

これからの学術情報システム構築検討委員会

京都大学附属図書館事務部長 米澤 誠

これから委員会における検討の経緯

委員会	電子リソース	目録システム
2012 委員会設置	ERDBプロトタイプ構築プロジェクト (-2013)	
2013		
2014	電子リソースデータ共有WG	
2015 「これからの学術情報システムの在り方について」	電子リソースデータ共有作業部会 設置 ERDB-JP公開	NACSIS-CAT検討作業部会 設置 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針案の要点）」
2016	「電子リソース管理システムの利用可能性の検証について（平成28年度最終報告）」	「基本方針」 「実施方針」
2017 これからの学術情報システムに関する意見交換会2017	「電子リソース管理システムの利用可能性の検証について（2017年度最終報告）」	
2018 「これからの学術情報システムの在り方について（2019）」	「電子リソース業務の管理基盤・ワークフロー構築についての検討（2018年度報告）」他	「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）」（→CAT2020）

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

2. 進むべき方向性

これからの学術情報システムに求められるのは、ユーザーが必要とする学術情報を直接的かつ迅速に入手することができる環境であり、これらを実現するために、以下の3点を推進する必要がある。

- (1) 統合的発見環境の提供
- (2) メタデータの標準化
- (3) 学術情報資源の確保

「これからの学術情報システムの在り方について」

(1) 統合的発見環境の提供

電子情報資源・印刷体を区別することなく統合的に発見し、さらに、最終的に必要とする学術情報にアクセスできる環境を構築する

(2) メタデータの標準化

標準化されたメタデータを利用することで、以下を推進する。

- ① 学術情報の発見可能性の強化
- ② 他機関(出版者, NDL, OCLC等)との連携による, メタデータの標準化と相互利用

(3) 学術情報資源の確保

従来の印刷体に加えて幅広く電子情報資源を確保するとともに、過去の資料の電子化を推進し、活用を図る。

「これからの学術情報システムの在り方について」

本委員会の当面の課題

(1) 電子情報資源 (= 電子リソース) の管理・共有を適切に行うためには

電子リソースデータ作業部会による, システムの利用可能性, 電子リソース業務の管理基盤・ワークフロー構築の検討

(2) NACSIS-CAT/ILL等従来システムの軽量化・合理化を図りつつ, 変化に応じたシステム整備が必要

NACSIS-CAT検討作業部会による, NACSIS-CAT/ILLの再構築 (軽量化・合理化) の検討

検討結果（2015～2018年度）

（1）電子情報資源

システムの利用可能性，電子リソース業務の管理基盤・ワークフロー構築の検討報告の公開

（2）NACSIS-CAT/ILL

NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）」を確定・公開

これまでの検討の確認と新たな方針の策定

作業部会の活動を受けて，これまでの検討に区切りをつけ，新たな方針として「**これからの学術情報システムの在り方について（2019）**」を策定

「これからの学術情報システムの在り方について (2019)」

取り巻く環境の変化

電子ジャーナルをはじめとした
電子情報資源の普及

図書館側では



資料の流通・管理のあり方が
大きく変貌

利用者側では



研究者・学生の情報利用や教
育・研究のプロセスが、電子的
手段を前提とするものに変貌

「これからの学術情報システムの在り方について (2019)」

これまでの検討

統合的発見環境

電子情報資源・印刷体を区別することなく
統合的に発見でき、最終的に必要とする
学術情報にアクセスできる環境(=統合
的発見環境)の構築に向けた検討

図書館側
&
利用者側

電子情報資源について

印刷体について

- ① ERDB-JPの構築・運用
- ② 商用システムの検証

・NACISIS-CAT/ILLの軽量化・
合理化

「これからの学術情報システムの在り方について (2019)」

これまでの検討

電子的情報資源について

① ERDB-JPの構築・運用による国内刊行の
電子リソースのデータ共有の推進

図書館側

② 商用システムの検証を通じて、契約から利用
まで一貫したワークフローの仕組みの検討

図書館側

「これからの学術情報システムの在り方について (2019)」

これまでの検討

電子的情報資源について

② 商用システムの検証を通じて、契約から利用
まで一貫したワークフローの仕組みの検討

図書館側



検討を通じて明らかになったのは

②-1 効率的なワークフロー実現のためには、契約
パッケージに含まれるタイトルリストや利用条件
等の各機関共通のデータを共有できる中央シス
テムが必要であること

中央システム

「これからの学術情報システムの在り方について (2019)」

これまでの検討

電子的情報資源について



検討を通じて明らかになったのは

②-2 各機関が契約情報やアクセス情報を管理する
図書館システムとの適切な連携によって、重複する
業務の削減につながる

図書館システム

「これからの学術情報システムの在り方について (2019)」

これまでの検討

印刷体について

・NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化

図書館側



方策としては

- 外部機関作成書誌データのシステム登録時の事前処理
- 出版物理単位での書誌作成 など

「これからの学術情報システムの在り方について (2019)」

進むべき方向性

これからの学術情報システムが実現すべき機能及び
検討課題について、以下の5点にまとめた

図書館側

(1) 統合的発見環境を可能にする新たな図書館システム・ ネットワークの構築

統合的発見環境

① 従来のNACSIS-CAT/ILLの枠組みを維持しながら、より豊かな
機能を各機関が選択的に導入できる環境を整備する

中央システム

② そのために、NII等が集中的に提供する中央システムと、各機関
が中央システムと連携して運用する図書館システムを有機的に
連携させた新たな図書館システム・ネットワークがサポートする
機能を定め、それぞれが担うべき役割を整理する

図書館システム

「これからの学術情報システムの在り方について (2019)」

進むべき方向性

(1) 統合的発見環境を可能にする新たな図書館システム・ネットワークの構築

[委員会での議論]

- ・従来のNACISIS-CAT/ILLが提供する印刷体を中心とした書誌情報の供給及び資源共有の機能を維持するべき
- ・各機関がより豊かな機能（電子情報資源のワークフローをサポートする機能や、電子的情報資源と印刷体のワークフローが一体となったシステム、電子情報資源も含めたILL機能等）を選択的に導入できるシステム構築を目指すべき

「これからの学術情報システムの在り方について (2019)」

- ・ 印刷体のほか、電子情報資源にも対応
- ・ 中央システムと図書館システムの一部を共同調達・運用

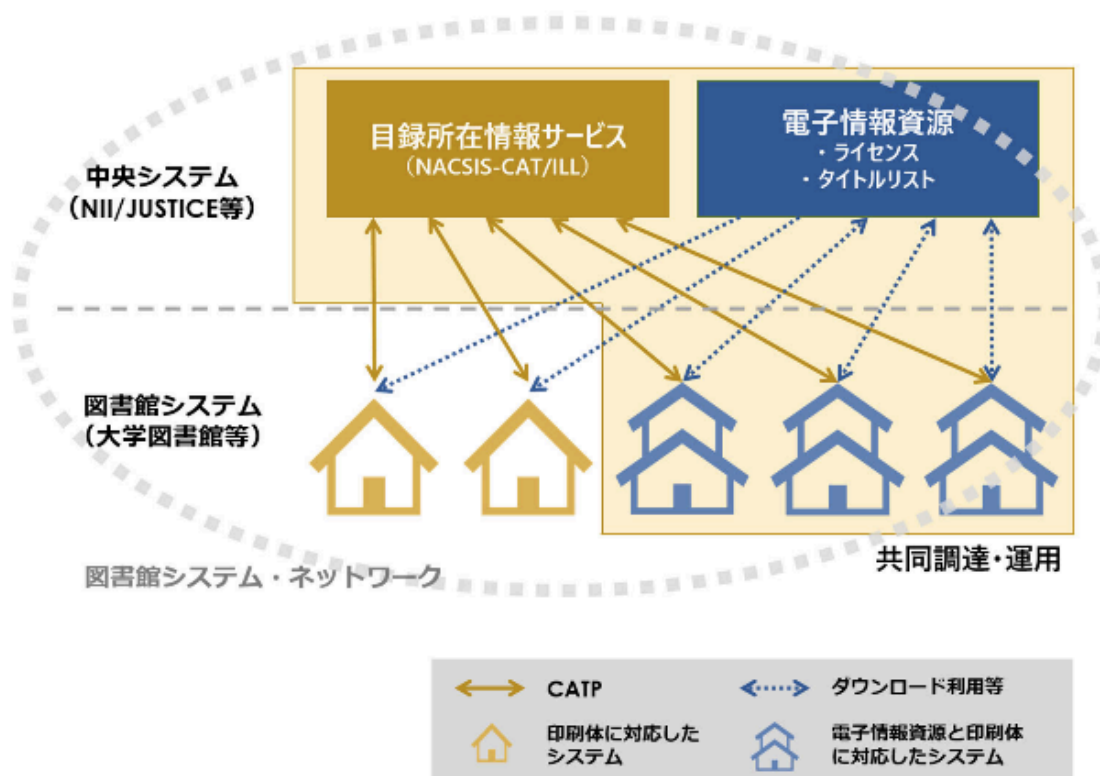


図2： 電子情報資源や共同調達・運用に対応した、新たな図書館システム・ネットワーク (イメージ)

「これからの学術情報システムの在り方について (2019)」

進むべき方向性

(2) 持続可能な運用体制の構築

(3) システムの共同調達・運用への挑戦

[委員会での議論]

- ・近年ではクラウド等の技術進展や電子・印刷を区別なく扱うことができるシステムの登場によって、実現する選択肢が広がっている
- ・システムの共同調達・運用によって新たなシステムを実現し、各機関でのコスト削減と運用強化を図る新たな可能性がある

「これからの学術情報システムの在り方について (2019)」

進むべき方向性

図書館側

(4) メタデータの高度化

他機関(NDL, 出版社等)と連携し, RDA及び日本目録規則2018年版への対応のほか, BIBFRAME等の新たな国際標準への対応について検討を行う

(5) 学術情報資源の確保

印刷体とともに, 幅広く電子情報資源(大学等のデジタルアーカイブや過去資料の電子化を含む)を確保するとともに, 統合的発見環境を通じたアクセス及び資源共有を推進する方策を検討する

「これからの学術情報システムの在り方について (2019)」

次に取り組むべき課題

- (1) 統合的発見環境を可能にする新たな図書館システム・ネットワークのモデル構築
- (2) 持続可能な運用体制の構築
- (3) システムの共同調達・運用に向けた課題検討

「これからの学術情報システムの在り方について (2019)」

検討体制

- (1) 本委員会の下に，上記課題に対応した新たな検討体制を組織する
- (2) 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)，オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)とともに課題の解決に向けた具体的な取り組みに着手する
- (3) 大学図書館の各協(議)会等及び関係諸機関と一層の連携を図る

課題の検討体制：新たな作業部会

システムモデル検討作業部会

1) 運用モデル・体制に関する検討

コミュニティ形成，追加機能利用に関するコスト負担

2) 共同調達・運用に関する検討

コスト分担，運用主体等

課題の検討体制：新たな作業部会

システムワークフロー検討作業部会

1-1) 中央システム整備（電子リソース対応）

JUSTICE提案書情報の共有，統合的発見環境，

図書館間のリソース共有，ERDB-JPのシステム統合

1-2) 中央システム整備（メタデータ流通の高度化検討）

電子ブック，デジタルアーカイブ，

国際標準等への対応（RDA，NCR2018年版，BIBFRAME）

2) 図書館システム整備

中央図書館が新たに提供する機能を活用した図書館システムの効率化・高度化（各機関における電子情報資源の管理・提供，電子情報資源と印刷体資料の管理・提供機能の統合）

課題の検討体制：新たな作業部会

システムワークフロー検討作業部会

3) ERDB-JPの運用作業

パートナーサポート，データ品質管理，コンテンツ拡充方針の策定，システム拡充の提案，国際連携の促進

4) CAT2020への運用移行支援作業（2020年度までを目処）

CAT2020への運用移行に関する助言

（マニュアル類の整備，システム調整，全国説明会）